

令和8年度 飛渡第一小学校 学校経営方針

校長

【教育目標】 「生みだし 汗し 磨き合う子ども」

目指す子ども像 「飛渡を愛し、かかわり合って高め合う 元気な子ども」

- ◇子どもが元気に登校し、安心して学校生活を送ることができる学校
- ◇子どもが「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できる学校
- ◇子どもが互いに認め合い、自分らしさを大切にできる学校
- ◇子どもが地域の人やものとかかわり、いきいきと活動する教育活動を生み出す学校

<経営の基本的構え>

- 少ない教職員が、共助の精神で支え合う協働的な教職員組織を構築する。
- 学習指導要領の趣旨に基づく学習指導・教育活動を実践する。
- 地域の教育的資源や人材を生かす教育活動を継続し、地域の願いや期待に応える学校づくりを推進する。（コミュニティスクールの推進、ユネスコスクールの理念）

I 教育活動の基本方針

【学習指導】

(1) 基礎的、基本的な技能を着実に身に付けさせる授業

個別最適な学び

少人数の良さを生かし、一人一人の学習状況や見方・考え方をとらえ、学力や体力を伸ばす。
教材や発問等の工夫により少人数なりの対話や深まりを促す効果的な指導を行う。

言語能力の向上

- ・表現力の育成（原稿を見ないで150文字～200文字、思いを語る機会の設定）
- ・ふり返りを通して、自分の成長や次につながる見通しをもたせる。

(2) 問題解決的・体験的な活動の充実

実感を伴った学び

知識・技能を教えることは大切である。同時に、児童に「問い」や「願い」をもたせ、仲間や様々な人と考えを出し合ったり、体験的な活動を取り入れたりして、実感を伴った学びを実現する。

思考力の向上

各教科や「ふるさと環境学習」で獲得した個々の学びを振り返ったり発信したりする機会を大切にすることでかかわりを促し、深い学びを実現する。同時に、(1)(2)のバランスをとった単元の構成、年間の指導の見通しをもつ。

(3) 小学校間の交流授業に積極的に取り組む。

ICTの活用や交流授業の設定など可能な教科学習では中条小学校との積極的な交流を行う。

【生活指導】

大人も子どもも「いじめを許さない、見逃さない」という学校風土を醸成する

(1) 学校生活の質的向上

言語を介した人間関係づくりを大切にし、自分の考えを言葉で説明できるようにさせる。

- ・互いを思いやる言葉遣いや行動を意識させ、自分の発言や行動を見つめさせる。
- ・全校での活動機会では、6年生をリーダーとした話し合い活動による解決と集団的な向上を促す。
遊び（飛一タイム） 登校班 学級生活（朝の会、帰りの会、学活、清掃、給食）
※少人数だからこそその「礼儀」と「感謝」 率先垂範

(2) 勤労・奉仕活動の充実

進んで働いたり奉仕活動をしたりする態度を養う。

→人のために働くことの意味や価値を伝えながら、自ら人の役に立とうとする態度を育てる。

- ・地域の行事・活動への参加
地域の人やものとのかかわり、支え合うことの大切さ、地域活性化への貢献
- ・農業体験活動の充実
働くことの大切さ、地域の産業の理解、収穫・収入の喜びや達成感
- ・飼育活動の継続（ウサギ、サケの飼育等）
命の大切さ、責任感、成長の喜び
- ・学校行事での奉仕的作業
責任感、一体感、自己有用感

【健康、体力にかかわる指導】

(1) 運動・体力の充実

- ・強い体づくりによって気力を充実させ、困難に負けない精神の涵養を図る。
- ・運動の楽しさを味わせるとともに、技能や体力を向上させる。
- ・日頃の体育授業や体育的行事での記録の蓄積や競い合いにより、自分の伸びを味わわせる。
(指導方法の工夫と個の伸びを実感できる評価)

(2) メディアコントロールの推進

- ・メディアコントロールの力、時間を守り自律的に行動する力の大切さを気づかせる。
※一人一台端末の使い方やルールを明確にする
※家庭への啓発と情報提供により、インターネット依存およびゲーム依存を防ぐ。（中学校区と連携）

2 地域から信頼される教職員

(1) 教職員一人一人の良さと個性を認め合う関係の構築

- ・互いの得意分野を生かすとともに、互いに学び合い、高め合う関係を構築する。
- ・授業や行事等の活動を通し、飛渡でしかできないことを自ら楽しむ姿を示す。

(2) 職員の協働性を大切にされた職場作り

- ・和み、助け合える職場であるように互い努める。
- ・互いに支えられていることへの礼儀と感謝を忘れない。
- ・少人数であっても全体への情報共有は必須である。打ち合わせと職員会議の場を活用する。
- ・学校運営にかかわる起案は2週間前の提出を守る。 「お互いのため」

(3) 教育に携わる人間としての自覚

- ・子どもの成長を願い、保護者や地域との協力・信頼体制を築く。
- ・子どもの心へ届き響く指導を心がけ、言葉がけや行動、態度や姿勢で示す。
- ・保護者や地域の方の学校への協力に感謝し、期待に応えるような言動を意識する。
- ・大人同士も子どもに対しても互いに敬意をもち、言葉がぞんざいにならないように意識する。
(親しみを込めたつもりでも…)
- ・非違行為、信用失墜行為は絶対に行わない。
→どんなに時間をかけて信頼関係を築いても、崩れるのは一瞬。

3 令和8年度・9年度の教育活動について

わたしたち教職員の使命 「飛一小を 飛一小らしく」

地域との一体感 飛渡で学ぶ 飛渡がステージ
体験こそが学びの第一歩 全身で飛渡を楽しむ、味わう…教職員も！

★「ふるさと環境学習」の実際は、メモリアルブックとR7全へき研究発表資料を参照。---